

右二つとも縫印付け方、縫方等は普通の三つ身と同様なれば略す

年ごとに遇ふとはすれど七夕の  
れる夜の數ぞすくなかりける

衿 共		衿	
袖	袖	衿	衿
		後身	前身
袖	袖	衿肩	前身

一、裁切の寸法

袖丈 七寸

袖幅 八寸二分五厘

身丈 二尺七分

身幅 一尺三分

衿幅 二寸五分

衿幅 三寸五分

衿肩 一寸六分

考へもの 二題!!!

いつも考へものは御子供がたの御慰みばかりであるので、今度は阿母さんがたや姉さん方の御慰みに

一、私の家とすぐとなりあつて居る家には、阿母さんと十一二歳ばかりの男子が一人ありますが、或る日私が椽側に居りますと、隣りの家ではがた／＼どん／＼音がしますから、はてなと見てゐますと、其の中に男の子がはだして井戸端にかけ出でますと、後から焼へさしの薪が一本つゝいて來ました。

どういふわけでしょう？

二、或人の話に、其人が友人の家を訪ねますと、友人の家の兒大凡七八歳ばかりならんが、駈け出

て來り訪問者の顔を見るや否や聲高に「阿母さん  
また來ましたよ來てもよいのにねー」と申しまし  
たので、友人は恍然として歸つたと申します。

誰が子供にそんな事を教へましたらう？

或母の日記 (第二回)

無名氏

生後四五ヶ月間の記事

(即ち三十四年一月より三月に至る)

現今周圍の状況

住所 海岸小都會を距つる凡一里の田舎にして

積雪の中に埋もる住居は借宅にして宅に

は老婆一人なり

交際 前に述べたる如き田舎にして殊に積雪の

時節なるを以て日常他と交際する事至て  
少したゞ一夜隔て、入湯に行く某家の家  
族のみ

滿三ヶ月頃よりして分らぬ言葉にて人に話する事  
を始めしがしばらく中絶し又十五週頃よく頻りに  
話をなせり朝未明に父母に先ちて目を醒まし安眠  
を妨ぐる少なからざりき

因に云ふ十五週とは生後第十五週の意なり以  
下之に同じ

第十八週頃より耳さとくなり少しのせきばらいに  
驚きて泣く其頃より赤き色を見て喜こぶやうなり  
又しきりに手を吸はんとせり

第二十週迄は手に物を握らするときは厭やがりて  
泣きしが其頃より柔かなるものを握り放さるに  
至れりそれより五六日を経て夜枕紙をさきて口に